



今年度は附属小の
「**創立150周年**」です。
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

スマイル⁴ふぞく



第8号 令和6年12月24日(火) 校長 古野 祐一

お陰様で「変化」の年になりました！

目指す姿を「**変化**」という言葉に込めてスタートした1月。その変化を、「**子供の参画**」によって成し遂げたいと願って始まった4月。自分たちの学級・学年・学校に変化をもたらそうと、子供と教師と一緒に考え取り組んできました。**低・中学年は係活動**を効果的に使う取組で、学級・学年にスマイルを増やしてきました。**高学年は学校づくり**まで視野を広げ、スマイルチーム活動という新たな取組に挑戦してくれました。150周年という大きな節目を、保護者による「お仕事体験パーク」に続き、**児童企画の「北斗祭」**が盛り上げてくれたことが良い例です。オーディションで選ばれた児童の一芸を、全校で応援しながら見ている姿には、互いをリスペクトする心が溢れており、温かい気持ちに包まれた時間となりました。5年生が来年も受け継いでチャレンジするのが楽しみです。

保護者の皆様によるサポートのおかげで、今年も子供たちのより良い変化を数多く見る事が出来ました。年末年始は、子供の成長を家族で喜び、新年の抱負への後押しをお願いいたします！

6年生による図書館の様態替え！

12月17日(火)には、新しい図書館の完成に向けた大移動が、6年生全員の献身的な働きによって完了しました。リーダー4人が熟考して立案した移動計画も見事でした。**自分がやりたいことにチャレンジする姿にも感心しますが、友達が成し遂げたいことを聞いて、全力で手を貸す子供たちの姿に、楽創6年生の心の美しさや温もりを見た気がします。**北斗の子が目指す姿を、行動で示してくれています。

150周年記念事業の目玉として取り組んできた図書館改造計画が、子供たちの企画力・行動力の結果、1月末に完成を迎えます。保護者の皆様にもぜひ見ていただきたいので、**図書館の開放期間を、2月10(月)～2月28日(金)に設ける予定**です。幼稚園送迎の際や育友会の時など、いつでも自由に御覧いただき新しくなった空間で読書を楽しんでいただければと思います。



北斗祭でルービックキューブ早揃えに挑戦！



北斗祭で連続けん玉に挑戦！



本棚移動の前に、まずは本の大移動！



この奥のスペースが大きく変わります。その名も「スマイルパーク」。お楽しみに！



本棚の新しい並べ方が美しく出来上がり！



机や椅子も大移動。絵画室で活用します！

※裏面に続きます！

子どものちから

本校の安全を守ってくださる一人に、江口守衛さんがいます。朝は早く、門の解錠、校門まわりの掃き掃除、雨や雪の日には、歩きやすいように渡し板の準備をしてくださり登校を



支えていただいています。幼稚園の川波守衛さんも、校内巡視をしていただきながら、いつも子どもたちに優しい声を掛けてくださっています。子どもたちに愛されるお二人の人柄に、私たちも学ぶものがあります。

終業式の前日、1年生の子どもたちが「今年もお世話になりました、来年もよろしくお願ひします。」と江口守衛さんに挨拶に行きました。1年2組長船教諭の道徳科授業によるものです。

支えがあって

子どもにとっては、毎日校門に立ってくださる江口さんの姿は、当たり前前の光景です。その当たり前前は、実は、とても有難いことで、私たちの暮らしは多くの人の支えがあり、感謝の気持ちをもつことが大切であると、長船教諭は語りかけました。

人との関わりや行為への価値付けを説くことは、人に関心を寄せる北斗の子を育てるために大切にされていることです。人に関心を寄せる北斗の子は、失敗やできないことを決して人のせいにはしません。上手くいなくても、自分できちんと解決しようとしています。将来困難にぶつかっても、ねばり強く問題解決する力を身に付けているのです。そして、自分中心ではなく物事の背景に目をやり、慮ることができる素敵な大人に成長していきます。

今年も多くの方に支えられた1年でした。よいお年をお迎えください。 **教頭 橋田 晶拓**

教えから学びへ²

子どもの姿で語る

本校では、日常的に職員同士で授業を公開し合う機会があります。



この写真はその授業の一つですが、参観する職員が、タブレットやビデオ

カメラで子どもたちを撮影している様子が伺えます。

これまでの授業研究とはいうと、教師が何を問うたか、どんな教材を提示したかといった「教師が教えた事実」に着目したものがほとんどでした。そこで、「教えから学びへ」の視点のもと、子どもが何を発したか、どのような学び方を選択したかといった「子どもが学んだ事実」への見方の転換を図っているのです。授業後には、撮影した映像等を使い、「なぜ、〇さんが～と発言していたかという…」 「〇くんはグループ学習を選択していましたが…」と、子ども一人一人の姿から見取った行動の意味や解釈を語り合い、自律した学びを促す方策を練ってきました。私たちは、教えの専門家であるとともに、学びの専門家としても力を高めていく必要があると考える機会となっています。

年が明けると、研究発表会に向け、ますます熱を帯びる附属小。子どもの学びを見取る目を磨き続けてきた職員一同で、子ども一人一人が輝く授業公開を目指します。 **主幹教諭 松尾 勇哉**

身近な幸せ

「おとなりさん」



1年生の授業での一コマです。入学して9ヶ月、学校での時間が充実していることを伝えてくれるスマイルに、思わずシャッターを切りました。

学校には、いつも「おとなりさん」がいます。分からないときには教えてくれたり、一緒に考えてくれたりするのが「おとなりさん」です。でも時には、悩みの種になることもあります。考えがぶつかることもあれば、思いがずれることもあるからです。いろいろな顔をもつ「おとなりさん」は、心を育ててくれる存在なのです。

本校では、人権月間に合わせて、改めて「言葉遣い」に焦点を当て、互いの存在を受け止めることを確認しました。友だちに届ける言葉を丁寧に選べるように、全校、全員で意識を高めています。

まずは「おとなりさん」から。そんな姿を探している中で出会ったこのようなスマイルが、更に全校に広がるようにと願ひ、いつもより大きめの写真で紹介させていただきました。 **教務主任 野口 拓也**